

## 航空主導権表 [14.31]

サイの目	結果
1	枢軸軍の主導権。枢軸軍の局地的戦術優位性。
2～5	枢軸軍の主導権
6～7	航空戦闘なし。全射撃ユニットは自軍飛行済ボックスへ戻る。任務航空ユニットは継続する。
8～9	ソヴィエト軍の主導権。
10	ソヴィエト軍の主導権。ソヴィエト軍の局地的戦術優位性。

## AA 射撃表 [14.4]

サイの目	結果
7 以下	効果なし
8～9	帰還
10～11	損傷
12	撃破

## AA 射撃表 DRMs

ソヴィエト軍の射撃：	枢軸軍の射撃：
−1 JU87 を射撃	−1 IL-2 を射撃
−1 全射撃ユニットが OoS	−1 全射撃ユニットが OoS
+1 射撃している AA タイプ・ユニット毎に	+1 射撃している AA タイプ・ユニット毎に
+1 射撃しているソヴィエト軍 HQ 毎に	+2 SB を射撃
+1* Ju88 又は He111 を射撃	+1* DB-3 又は TB-3 を射撃

\*CAS を実行しているときにのみ加える DRM  
最終 DRM を相殺する前の最大 DRM は、+2/−2。

注釈：任務ヘクスと周囲全 6 ヘクスが以下を含むと、AA 射撃は不可。：

- ・騎兵ユニットのみ（例外：ドイツ軍騎兵）
- ・敵ユニットなし又は非戦闘ユニットのみ
- ・師団規模未満のソヴィエト軍非 AA 又は非 HQ ユニットののみ（例外：海上ユニット）、又は
- ・ZOC を持たない枢軸軍ユニットのみ（例外：海上ユニット、小艦隊、AA ユニットの）

## 航空戦闘表 [14.33]

サイの目	航空戦闘差（攻撃側－防御側）						
	−3	−2	−1	0	+1	+2	+3
1	D	D	D	X	X	X	X
2	A	A	D	D	X	X	X
3	−	A	A	D	D	X	X
4	−	−	A	A	D	D	X
5	−	−	A	A	A	D	D
6	−	−	−	−	A	A	D
7	−	−	−	−	−	A	A
8	−	−	−	−	−	−	A
9, 10	−	−	−	−	−	−	−

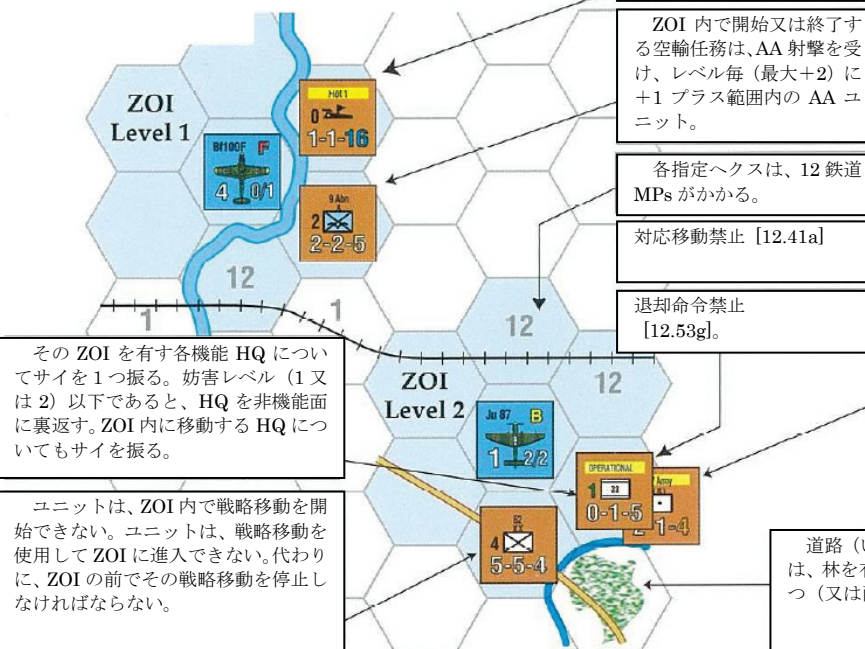
手順：航空戦闘差を判定するため、射撃しているユニットの航空戦闘値から目標ユニットのそれを差し引く。次いで、1 つのサイを振り、結果を見つけるためにそのコラムを参照する。航空戦闘は、射撃している航空ユニット間で同時である（任務航空ユニットは、決して射撃しない）。2 つの射撃航空ユニットが交戦しているとき、いかなる結果も適用する前に両ユニットの射撃を解決する。例外：局地的戦術優位性 [14.32d]。

## 航空戦闘と AA 射撃表結果の説明

- X（撃破）＝目標は除去される。直ちに影響下航空ユニットを撃破ボックス内に置く。
- D（損傷）＝目標は損傷する。直ちに影響下航空ユニットを損傷ボックス内に置く。
- A（帰還）＝目標は帰還する。直ちに影響下航空ユニットを飛行済ボックス内に置く。
- −（効果なし）＝効果なし。任務ユニットはヘクス内に留まり、射撃ユニットは飛行済ボックス内に置かれる。

## 敵ユニットへの妨害の影響 [14.65]

たとえ ZOI ヘクスが重複しても、最大妨害影響はレベル 2。妨害は、通常の移動又は補給をたどることに影響しない。



## ソヴィエト軍 HQs への妨害の影響 [14.66]

−そのヘクスに影響する全ての妨害レベルを合計することにより、ZOI 内の全てのソヴィエト軍 HQ ユニットの指揮値を減少させる（最大 2）。

−減少した各指揮値は、以下の HQ 能力を減少又は除去する。：

- ・非自動車化ユニットの活性化 [21.12a][例外：親衛ユニット、21.41]
- ・対応移動について資格を持つ自動車化 MA を有するユニット [12.41b と 21.12c]
- ・退却命令の発令 [12.54a と 21.12d]
- ・1 つの強制的な退却不可を取り去る [21.12e]
- ・一定の戦闘にその支援戦力を提供することを、HQ の指揮範囲内にある 2 つの砲兵ユニットに認める [13.15a と 21.14]。

注釈：いずれかのレベルの航空妨害は、戦闘毎に砲兵支援を提供することができる砲兵の数を 1 に減少させる。1 つの補給下で射程内の砲兵ユニットは、たとえスタックした全ての使用可能砲兵が妨害されていても、常に戦闘へ支援を供給できる。

道路（いずれかのタイプ）移動率は、認められない。ただし、道路移動は、林を有する道路と高速道路のヘクス内、林を持つ 2 つの隣接ヘクスの 1 つ（又は両方）にある橋梁について適用される。